

水稻を核とした農業経営の安定化

活動対象: 東川町東部地区(14戸2法人)

①高品質米生産技術の推進を図り、担い手の育成と交流の促進のために②若手農業者への栽培基本技術習得支援と③新規雇用労働力の確保と農作業の効率向上に取り組んだ。

結果、高品質米生産技術改善実施戸数7戸となり、高品質米の生産性は向上した。また、若手農業者への研修会一回当たりの平均参加者数は10.3人となった。農作業マニュアルの活用で1事業所当たり新規雇用者は3人となり、新規雇用労働力は確保され、農作業の効率が向上した。

1 課題設定の背景

平均耕地面積: 23.5ha 経営面積の**96%が水稻** 平均年齢: 58歳
6戸に後継者

稲作主体

地域内の交流の場が少ない

規模拡大

収量・品質が個別目標にとどかない!

情報交換できない!

春の労働力が足りない!

収量・品質の向上をめざして

水稻の高品質米安定生産技術の確立

①高品質米生産技術の推進

担い手の育成と交流の促進

②若手農業者への栽培基本技術習得支援

③新規雇用労働力の確保と農作業の効率向上

2 活動の経過

●水稻の高品質米安定生産技術の確立

①高品質米生産技術の推進

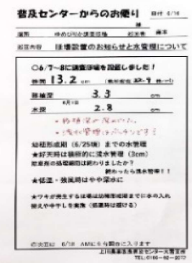
- R3の調査結果から、各農家の改善が必要な事項を提案
- 稲の生育状況を伝え、栽培管理の変化を農家に確認してもらう
- 除草剤試験の実施
- 『普及センターからのお便り』と『稲のあゆみ』で情報伝達
- R4年の問題点と改善点を個別に提案



調査項目	調査結果	改善点
生育状況	生育良好	引き続き観察
除草剤	効果あり	引き続き観察
水管理	水深不足	水深調整
その他	雑草発生	除草剤追加

水稻生育ステージに応じた普及センターからのお便り

稲のあゆみで「我が家の1年の努力」が分かります



●担い手の育成と交流の促進

②若手農業者への栽培基本技術習得支援

- 水稻の基本技術習得に向けて研修会を実施
 - ア 育苗管理
 - イ 冷害危険期の水管理と移植時の苗生育調査結果の報告
 - ウ 適期刈取り
 - エ 石の多いほ場での農機の操作方法とメンテナンス



③新規雇用労働力の確保と農作業の効率向上

- 農作業マニュアルの補完と作業マニュアルを活用した新規雇用者の確保・実績調査を実施
- 雇用者の労働状況を聞き取りし、農家へ実績を報告
- 継続的な農作業マニュアルの活用の推進



3 活動の結果

● 水稲の高品質米安定生産技術の確立

① 高品質米生産技術の推進

😊 『稲のあゆみ、普及センターからのお便り』でタイムリーな情報が発信され、適正な栽培管理につながった農家が増えた。 **技術改善実施戸数 目標 5戸 → 実績 7戸** ○; 7戸が技術を改善

農家	改善事項	提案事項	実績 (達成に○)
A	栽植密度過多による倒伏のリスク	適正株間(11cm)の提案	株間(R3)9cm→(R4)10cm
B	雑草繁茂	残草に効果の高い除草剤の提案	提案除草剤による試験ほの設置
C	地力の低下による後半の生育停滞	秋の稲わらすき込み(腐熟剤添加)	腐熟剤を添加した秋すき込みを実施
D	整地不足、ピニールの劣化等による苗の生育不良	ハウスビニール等の資材の更新	—
E	ハウス資材による苗立枯病の発生	病原菌の付着が疑われる資材の更新	ハウス資材の一部更新
F	ワキによる根傷み	心土破砕の提案	(春心土破砕実施予定)
G	リン酸蓄積ほ場	リン酸の減肥提案	リン酸低減肥料の使用
H	移植深が深い	適正移植深(1.5~2.0cm)の提案	移植深(R3)3cm→(R4)3cm
I	施肥量が少ない	窒素増肥提案	N施肥量+0.5kg/10a
J	育苗日数がやや長い	育苗日数短縮	育苗日数(R3)35日→(R4)33日
K	適切な管理のため特になし	適切な栽培管理の継続	継続した栽培管理

B農家
地点①で残草あり。代かきの均平や効果的な体系処理が必要!



B農家の除草剤試験結果

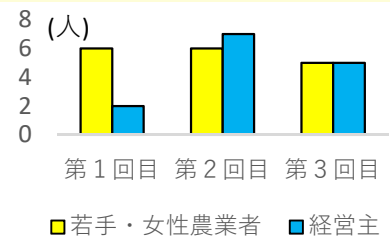
F農家
ワキの発生による根傷み対策として、春の心土破砕施工予定

C農家
品質と収量アップを目標に、腐熟資材の施用と稲わらの秋すき込みで地力増進を実施

● 担い手の育成と交流の促進

② 若手農業者への栽培基本技術習得支援

😊 研修会には5戸から2世代の参加があり、自分と複数の水稲ほ場を比較しながら生育状況を学んだ。「農業技術を、親の経験値以外から具体的に教わって良かった。」と、薬剤効果、農機の管理方法も含めた意見交換が行なわれた。



研修会への参加状況人数

水稲栽培研修会1回当たり参加者数 目標11人 → 実績10.3人

😊 農作業マニュアルの充実を図った。また、作業マニュアルを活用した新規雇用者は6名確保され、1事業所当たり3名となった。該当事業所に雇用状況を聞き取りし、継続的な農作業マニュアルの活用も依頼した。

農作業マニュアルを活用した1事業所当たり新規雇用確保者数 目標3人 → 実績3人

～地域の声～

『稲のあゆみ、普及センターからのお便り』

・次年度に向けた栽培管理の見直しができる

・我が家の悩みどころが浮き彫りになっていた
しっかりと説明され、目標が分かった



農作業マニュアルからの新規雇用



新規雇用者
・動画で作業が確認でき、作業内容が分かりやすかった

雇用した農家
・仕事を頼むと、「動画を見たので、仕事の仕方は分かります」
仕事内容の説明時間と手間が省けた!

4 今後の活動

● 水稲の高品質米安定生産技術の確立

- ・高品質米生産に向けた個別農家の課題解決への支援
- ・水田の透排水性改善に向けた取り組みを進める

● 担い手の育成と交流の促進

- ・後継者のいる農家の高品質米生産に向けた技術支援とその実証を図る
- ・農作業マニュアルの補充を行いながら、継続活用を依頼
- ・新規農業雇用者の増加効果の検証